

2012年10月



(No. 17)

## 経営支援NPOクラブ創立10周年・特別記念号

～おかげさまで、今年で10周年、これまでのご支援ありがとうございます  
販路開拓支援をメインテーマにこれからもがんばってまいります～

### 【ご挨拶】

理事長 荻田 浩

経営支援 NPO クラブは、2002年6月に創設、同年10月に非営利活動認定法人に認定され、本年は創立十周年という一つの節目を迎えました。創設時は、栃木県鹿沼商工会議所傘下の中小企業支援から始まりましたが、爾来口コミで当クラブの認知度も高まり発足当初の会員数企業 0B、40人弱から現在は170名強までに増加し、活動範囲も北海道から沖縄に至るまで全国に展開しつつあります。

創設時の10年前と同様、我が国を取り巻く内外の経済状況は依然厳しく、東日本大震災からの復興も緒についたばかりで先が見えず、日本が目指す「新成長戦略」- 強い経済、強い財政、強い福祉の実現には程遠く、福島原発事故に端を発したエネルギー問題も抱え今や日本の再生は待ったなしの状況に追い込まれているといっても過言ではありません。当 NPO が支援する中小企業も円高傾向の中、大企業の海外移転が一層加速化される状況の中マーケットの縮小、競争激化、付加価値率の減少、後継者難等の問題を抱えながら、ますます難しい状況に追い込まれつつあります。しかしながら拱手傍観していても事態は改善されず、むしろ日本が直面している少子高齢化、福祉医療費の増大、大転換を迫られているエネルギー問題など、むしろマイナスと見える要因をプラスに転じる積極的な取り組みを図り、中小企業が保有する微細加工技術、小ロット生産の対応、きめ細かなサービスを生かし、当クラブの中小企業支援も今後成長が期待される医療介護分野、新エネルギー・環境関連分野に注力してまいりたいと考えます。本年前半は、東北経済産業局関連で東北地区信用金庫協会から再委託を受け、宮城、岩手、青森県の首都圏での中小企業販路開拓に取り組み、この9月末までに約150回の販路開拓マッチングを首都圏において実施中で東北復興に貢献すべく目下努力中であります。

本年は、当 NPO クラブ創立十周年目を記念して、来る 10 月 10 日に宇宙航空開発研究機構（JAXA）川口教授による特別記念講演会「はやぶさを支えた日本のテクノロジーと技術者魂」を開催しますが、今後の日本経済の一翼を担う中小企業のものづくりの伝統と活力を我々自身が、この講演会から読み取り支援に生かしていければと期待いたします。会員の皆様の今後の一層のご奮闘、ご協力をお願い申し上げます。

## 経営支援 NPO クラブの 10 年間の歩み

- 2002（H14） 6月：大貫義昭（初代理事長、三井物産OB）が仲間18名と語り  
中小企業支援を目指したNPOクラブを設立  
10月：東京都より、NPO法人として認証を得た。認証番号：14  
生都協市特第1104号（2002年10月25日）
- 2004（H16）12月：正会員93名、出身企業55社、賛助会員企業数38社に達す。
- 2008（H20） 5月：二代目理事長に荻田浩（三井物産OB）が就任
- 2009（H21） 3月：現在の事務所（東京都千代田区内神田1-5-13内神田TKビル6階）へ移転。
- 2012（H24） 3月：正会員161名、出身企業92社、賛助会員企業数17社、  
特定支援会員企業数39社
- 2012（H24）10月：経営支援NPOクラブ・創立10周年・特別記念講演会並び  
懇親会の開催 実施日：平成24年10月10日会場：大手  
町サンケイプラザ 次第：第一部：特別記念講演会  
演題：「はやぶさを支えた日本のテクノロジーと技術者魂」  
講師：川口淳一郎氏、独立行政法人 宇宙航空研究開発機構  
（JAXA）教授、第二部：懇親会 於：4階・ホール

## 経営支援 NPO クラブは、この 10 年間で大きく成長を遂げました

### その1：会員数は、スタート時から10年間で約10倍になりました

- ・旗揚げ時、18名の会員でスタートしたNPOクラブは、2012年10月現在170名となり、約10倍に会員数が増え、よりパワフルな知的集団に成長しました。

### その2：会員の平均年齢は、10年間で5才以上アップし、70.5才となりましたが益々 気力旺盛な知的集団です。

- ・この10年間で、当クラブの会員の平均年齢は、世の中の変化とともに、5才以上アップし、現在70.5才となりました。その一方で、活動実績は、拡大の一途をたどって

います。慶応大学池尾教授説：「元気なシニア層 = 7割実年齢説」を借りれば、当クラブの会員の実年齢は、49才ということになります。気力溢れ元気なシニア会員が販路開拓に取り組んでいる現在の当クラブの姿にご注目下さい。

(参照)「日経ビジネス2012.9.10日号」

“老人パワーがさく裂”のタイトルで、当クラブの紹介記事が掲載されています。

### その3：当クラブの財政基盤は、年々安定度合を高めています。

・平成23年度の決算内容は、経常収入が過去最高を記録、8期連続で黒字化を達成しました。平成24年度も順調に推移しています。

### その4：中小企業の皆さまの“販路開拓支援”に対する期待が一段と高まっています。

・日本経済の根底を支えているのが中小企業です。グローバル競争の波にもまれ、経営環境は年々厳しくなってきました。そのため、全国各地の中小企業各社の自社の技術、商品を首都圏市場へ売り込みたいという販路開拓支援ニーズが年々高まってきました。これらのニーズに対し、当クラブは、今後も会員が現役時代に培ってきた幅広い人脈を駆使し応えてまいります。

## **本年（平成24年度）以下の全国の公的支援機関からの受託案件に取り組んでいます**

・当クラブの強みである販路開拓支援の活動実績が評価され、受託案件は全国に広がっています。

トピックス

本年度も、昨年度の大震災で被災した東北地方の中小企業の復興支援を続けています。

後述「東北経済産業局の助成プロジェクト「ビジネスマッチ東北ハンズオン支援事業  
後述「福幸プロジェクト」

医療、介護・福祉に特化した支援が増加傾向

後述「岡山県」「諏訪県ものづくり推進機構」

四国・4県を横断的にカバーした都市圏連携ビジネスマッチングを受託

・四国：四国4県の有力な中小企業を横断的にカバーした「戦略的販路開拓ネットワーク支援事業における都市圏連携ビジネスマッチング」を初めて受託

受託機関

札幌市：札幌市首都圏ビジネスマッチング

みやぎ産業振興機構：被災中小企業商品販売力等育成支援、支援企業へのマッチング

東北信用金庫協会：ビジネスマッチング東北2012年秋、企業招致

つくば研究支援センター：「CEATEC JAPAN」「産業交流展」「スマートグリッド

展」「彩の国ビジネスアリーナ」への企業招致

足立区： 「産業交流展」出展企業の選定と企業招致

板橋区（中小企業振興公社）：ビジネスチャンス、販路開拓支援事業、海外展開支援

武蔵野市・三鷹市・小金井市：武蔵野エリアフェスタへの企業招致

埼玉県： 経営革新企業販売力強化応援事業、販売支援、市場分析、販売戦略の立案

栃木県産業振興センター：市場開拓支援委託事業、新商品の目利き、顧客紹介、新規事業立ち上げのアドバイス

藤岡商工会議所： 藤岡地域活性化

諏訪県ものづくり推進機構：長野諏訪工業メッセ、出展医療機器企業への企業招致

静岡県産業振興財団：首都圏販路開拓コーディネートプログラム、マッチング  
ふじのくに販路開拓支援、支援企業と面談、マッチング

浜松商工会議所：販路開拓支援塾・光、電子産業クラスター、

富山県（TONIO）：販路開拓Step up事業

大阪市： 表面技術要素展、出展企業への支援

やまぐち産業振興財団：目利き相談会、マッチング支援事業、マッチング

一般財団 四国産業技術振興センター：都市連携ビジネスマッチング事業、支援企業選定、東京にてヒアリング実施、マッチング

## 本年（平成24年度）メインの販路開拓支援事業に加え、他の支援活動についてのご報告

その1：「スマートコミュニティ研究会」を立ち上げ、会員の知見を結集し、このテーマについて、現在、情報発信をしています

・「スマートコミュニティ」は、電力インフラのみならず、都市計画、交通網などの社会インフラ、次世代モビリティ、ビルや家などの建築、省エネ・エネルギー需給、情報通信といった、あらゆる社会システムにかかわりを持ちます。当研究会は、スマートコミュニティに関する調査結果や研究成果を適宜情報発信しています。また、講演会・セミナーの開催、スマートコミュニティ関連企業、研究施設、実証プラント等の見学会、海外プラン度や見本市訪問等も行っていきたいと考えています。

現在実施中の再生可能エネルギー関連ビジネス講演会を実施中

演題：「再生可能エネルギービジネスは、中小企業にとってビジネスチャンスの宝庫だ」

実績：このテーマで本年以下の地域で講演を行っています。

NPOサロン（4月24日） 神奈川県（6月7日） 長野県テクノ財団・浅間テクノ地域センター（6月29日） 藤岡商工会議所（7月4日） 福島県産業

## 振興センター（11月8日）

### その2：中小企業の皆さまの海外展開支援事業をスタート

- ・ 中小企業各社の急増する海外進出ニーズに対応すべく、本年より、海外展開支援事業をスタートさせました。現役時代、海外市場で市場開拓に取り組んできた実務経験豊富な60余名の会員が、皆様のご相談に対応させて戴きます。
- ・ 当方をご提供できますメニュー一覧
  - 1) 海外取引先との貿易一般実務遂行支援  
代理店契約書、売買契約書の策定、輸出入諸手続に関する助言、貿易代行業者、海運業者等の紹介
  - 2) 海外進出に興味のある企業幹部を対象とした講演会、セミナーの開催  
何故海外進出が必要なのか？から始まり、進出検討の際の具体的なチェックポイント等々さまざまな演題が用意できます。
  - 3) 海外進出を考慮されている企業へのコンサルテーション  
進出を考慮する際の心構えから始まり、進出先の決定、最終計画書の策定に至るまでの一連の作業推進への支援実行。必要に応じての外部機関の紹介。  
(例えば、フィージビリティスタディーの実施、工場立地選定から生産開始までの実例を基にした助言等)
  - 4) 具体的助言  
海外進出を検討中の企業様に対し、下記のような、具体的な支援が出来る専門家を用意しております。
    - 4 - 1 自動車部品関連でアジア、ブラジル、スペイン、メキシコ等の諸国への生産拠点設立の際の助言、日系現地企業の紹介、人材の紹介
    - 4 - 2 電機部品関連での上述内容と同じ支援
    - 4 - 3 プラント建設関連での設計から施工までの広範囲なアドバイス
    - 4 - 4 中国、東南アジア、中近東進出の際の助言  
現地法人設立の際の注意点、労務問題、補助金、特許等広範囲な助言
    - 4 - 5 販社設立と販売網の確立の際の各種助言

以上

### その3：講演会事業で発信中の演題について

- ・ 「これからどうなる製造業、勝ち残り戦略～日本のモノづくり産業の生き残り～」  
藤岡商工会議所（9月26日）・・・講師：荻田理事長
- ・ 「企業の成長が町を変える」

入間商工会議所（7月24日）・・・講師：戸谷会員  
・「顧客獲得につながる商談会・展示会のツボを伝授します」  
山口銀行（8月27日）、上田市商工会（11月9日）・・・講師：小泉会員

## 【全国各地の活動の詳細】

### ビジネスマッチ東北ハンズオン支援事業

本事業は、東北地区信用金庫協会より受託した事業で、青森、岩手、宮城、福島 の 4 県の中小企業の生産品の首都圏への販路開拓支援を主要内容とする事業である。しかし支援の背景には、昨年の大震災で被災した東北地方の復興支援と言う大きな社会的意義を内在しており、NPO も全機能を挙げて取り組んでいる。

事業内容は前記地域に根拠を置く中小企業 30 社に対し各社 5 回、総計 150 回の販路開拓支援を平成 24 年 9 月末を目途に実施するもので、8 月末現在約 120 回の支援を完了し、既に幾つかの商談も成立している。本事業は東北経済産業局の助成によるもので、事業年度は平成 24 年度一杯（平成 25 年度 3 月末）で終了するが、本年 11 月 8 日には仙台市「夢メッセみやぎ」で開催される「ビジネスマッチ東北 2012 秋」の展示商談会において本事業の成果発表を行うことになっている。又同時に本商談会に NPO が発注側企業 13 社に首都圏から来場願いたい地元出展企業と商談を行う支援も実施している。

NPO はこれ等の支援を通して直接ご支援している企業は勿論、東北地区が 1 日も早く復興を遂げる様日夜本事業に注力している。

### 福島復興支援プロジェクト活動（福幸プロジェクト）～福島の太陽光発電所設置計画支援

昨年度、原発風評被害を受けた福島を支援するために「福幸プロジェクト」を立ち上げました。初年度は、支援物資の届出、福島県産品の即売会支援、原子力発電所と放射線知識の啓蒙など直接的活動を主に行ないました。2 年目は、方向を変え、地元自立活動を側面からバックアップすることに重点を置いて活動を継続していきます。

実施内容は、まだ計画段階のものが多いのですが、主な項目として

- 太陽光発電所計画の支援
- 温泉観光地集客プログラム策定支援
- 自治体復興プログラム支援

等を掲げています。この中で特に力点を置いている項目は、「太陽光発電所の建設計画」支援です。まだ骨子が決定しただけですが、300kW 程度の太陽光発電所を福島県内の遊休地に 2013 年中に建設しようとするもので、この発電所を自然の美しい福島の復興のシンボルとすべく、多くの市民、また全国の賛同者を巻き込んで実現する所存です。

## 茨城県

---

昨年に引き続き、「ひたちなか商工会議所」工場見学会を以下の2か所で行った。

1. 6月7日、リコー(株)御殿場事業所
2. 9月5日、横川マニファクチャリング(株)甲府工場

いずれも、参加者はひたちなか商工会議所の特定商工者会員(1,375社)から募りバス1台をチャーターし、当該工場への直接訪問という形をとった。いずれも参加者から極めて啓発される内容と評判をとり、来年も継続の見込みである。

## 板橋区中小企業振興公社

---

3年ぶりに当NPOクラブが落札した。企業支援方式は、個別支援、6月に開催された機械要素技術展への顧客招致、産業交流商談会への発注側企業の招致に加えて海外展開(輸出入)セミナーである。今年度の特徴は、個別支援の内容が、販路支援、海外展開支援、提案書作成指導、工場見学会等多岐にわたっている。板橋区案件は過去受注に結びついた比率が高く、勢い、その期待度は大きい。板橋区は今年度より板橋区産業活性化室の業務が(財)板橋区中小企業振興公社に移管された。いわゆる、初年度だけに実績を残すことが重要である。

## つくば支援関係

---

平成24年度は前年度に引き続き、つくば研究支援センターより次の展示会支援の要請を戴いた。

- (1) 機械要素技術展(平成24年6月、8社支援 完了)
- (2) CEATECH JAPAN 2012(平成24年10月、5社支援)
- (3) 産業交流展(平成24年11月、9社支援)
- (4) 第3回国際スマートグリッドEXPO(平成25年2月、5社支援予定)
- (5) ビジネスアリーナ2013(平成25年2月、10社支援予定)

この中完了した(1)については、製本報告書を提出し8月初めに荻田理事長出席の下、TCIにおいて報告会を開催した。本支援において、10件以上について今後の成果が期待され、又TCIが出展企業に実施したアンケートではNPOに対する評価は非常に好評であった。平成24年度はいずれも展示会支援であり、今後4件の支援が残されているが、最初の機械要素技術展同様NPOの全機能を傾注し支援に万全を期したい。

(下の写真は機械要素技術展のつくばブースの様子、於東京ビックサイト)



## 神奈川県

本年度も川崎市産業振興財団・かわさき新産業創造センター（KBIC）よりベンチャー企業2社の定期的経営支援が決定。5月に企業面接を行い、支援会社を決定した。昨年度は4社であったが、今年度は支援に相応しい企業が少なく、その分、濃密な支援を行う。（ベルカ（株）、メディサイエンスエスポア（株）の2社）。

## 静岡県

浜松商工会議所

### （1）『販路開拓支援塾』開講、販路開拓の自立化をサポート

自社の強み・弱み分析から展示会ノウハウまで一貫して伝授

数年前より販路開拓支援事業を展開してきたが、肝心の支援企業が自社の強み・特徴（他社とに違い、お客様への貢献ポイント）を十分に把握していない、また、展示会や顧客訪問でのプレゼン等でお客様に自社を上手くPR出来ないというようなことが多かった。

そこで平成24年度は支援企業自身がそれらの課題を克服し販路開拓の自立化を目指すことを目的に『販路開拓支援塾』を7月より4回の予定で開講した。これは1回に6時間を掛け、講義と演習・事例発表等を通じて、単なる座学ではない販路開拓の肝を勉強してもらうというもの。浜松・飯田地区より17社（28人）が塾生として参加（8社はトップが参画）し懸命に取り組んでいる。

また、支援塾の成果は、来年1月のインターネブコン（ビッグサイト）で実践し、当NPOも企業招致等でサポートする。

- ・ 第1回（7月19日）：自社分析・意識改革編（6時間）

自社の強み・弱み分析を通して真の姿を再認識し、新たな販路開拓に向けた課題・対応につなげていく基を確認した。

NPO会員が実際の経験等からの事例や考え方を講義し、塾生（参加企業）は自社分析をまとめ代表3～4社が発表して理解を深めた。



- ・ 第2回(8月23日): 自社PRシート作成編(6時間)  
自社の強み・弱み分析を踏まえて販路開拓に向け、自社PRをどう纏めていくかを、盛込む内容や書き方を学んだ。NPO会員から基礎的な内容・項目及び、自らの経験に基づく事例を講義。後半は、塾生が自社のPRシートを作成し、代表による発表・Q&A等で理解を深めた。
- ・ 第3回(9月6日): 展示会編(6時間)  
顧客獲得につながる展示会・商談会のツボを、購買活動の大きな動き(変化)や来場者の視点から講義。豊富な映像事例による展示・顧客対応の「上手・下手」を示し、さらには展示会後のフォローの重要性を実際のフォロー事例を踏まえて理解してもらった。
- ・ 第4回(10月4日): 纏め編(4時間)  
過去3回の振り返りと共に、今までの成果を盛込んだPRシートを作成し、代表数社による発表とQ&Aを通して理解を深める。

## (2) 企業訪問商談会

浜松地区企業が数社単位で、顧客企業を訪問し商談会を開く支援準備中。医療関係、輸送機関係の2回実施予定。

顧客企業側のニーズ把握とそれに見合ったシーズを持つ企業の訪問が必須、また、ニーズに応えるために1社では無理でも補完する2~3社で連携することも必要となってきた。

## (3) 日産テクニカルセンターでの商談会支援

来る10月18,19日、浜松・飯田地区企業約50社が、日産テクニカルセンター(神奈川県厚木市)を訪問、展示商談会が開催される。

日産本体、及び関連会社から開発部門、購買部門が集まり、的の絞れた商談会となる。この開催は、日産OBの当NPO会員が仲介役を勤めて実現したもので、当日は会場にてスムーズな運営をサポートする。

## 諏訪圏ものづくり推進機構

本年の工業メッセは新たな主催者に長野県が加わり全県的展示会として11月15日~17日の3日間開催される。主催者が強調している、成約する展示会の一の方策として当クラブが担当する「ミニ商談会」が位置づけられているが、医療を中心に7社の企業を招聘して28回の商談を実施する。招聘企業が自社ニーズに合致するシーズを保つ企業を、広く全出展企業の中から選定する方法で、他では無い特徴を有しマッチング性の高い商談会となっている。この選考方式が可能なのは、出展企業の売り込みたいシーズを一枚に纏めた「一技PRシート」の冊子が有り、招聘企業の選考に供している事に有る。

## 長野県

長野県テクノ財団・浅間テクノ地域センター

事業名	実施日	演題	講師
製品企画マーケティング塾	6/29	「再生可能エネルギーは、中小企業にとってビジネスチャンスの宝庫だ」	森本五百樹氏
同上	7/27	「風力発電ビジネスにおける中小企業のビジネスチャンスについて」	佐藤敏夫氏
種探し&未来技術を語るシリーズ	6/8	「太陽光発電とLED照明の革新的新技術」	アーベル・システム(株) 代表取締役 鈴木文雄氏
同上	10/2	「ロボット開発の最前線」	千葉工大・未来ロボット技術研究センター 所長・古田貴之氏
同上	10/19	「電気自動車の量産技術と将来動向～車両、バッテリー、モーター～」	日産自動車(株)、車両生産技術部・先進車両生産技術部・エキスパートリーダー岸田郁夫氏
トップに聞くシリーズ	7/6	「トヨタ式、人づくり、モノづくり」	近藤哲夫氏
ハイテクツアー	9/7	「成田エンジン工場&整備工場見学会」	
同上		JAXA 予定	
お出かけ産学交流会		未定	

長野県テクノ財団・善光寺バレー地域センター

事業名	実施日	演題	講師
ニューグリーン製造研究会	7/6	「次世代有機系太陽電池の最前線～色素増感太陽電池開発の最前線～」	東京大学先端科学技術研究センター特任教授 内田聡氏
同上	9/28	「小型風力発電機の開発の最前線」	足利工業大学総合研究センター・工学部創生工学科、助教 西沢良史氏
同上	11/13	「高付加価値マイクロエネルギーの最前線～エレクトレット発電・マイクロ熱光発電等の最新動向」	東京大学・大学院工学系研究科・機械工学専攻・教授

			鈴木雄二氏
--	--	--	-------

(財)上伊那産業振興会

事業名	実施日	研修会名	講師
人材育成研修会	7/3、4	「ISO9001内部監査員養成研修会」	富長健治氏
同上	10/2、3	「ISO14001内部監査員養成研修会」	

**富山県**

本年度も(財)富山県新世紀産業機構より 販路開拓ステップアップ事業支援事業の受注、決定! 6月初め4組織の競争入札による支援事業選考評価会議が開催された。その結果、昨年、一昨年に続き本年度も支援先として、当NPOクラブがそのうちのの一つとして選考された。既に、お盆前までに支援会社との初回面談を終え、具体的支援活動を開始した。9月中旬現在、40回支援の中20回を消化し、順調な推移である。

**岡山県**

「国際福祉機器展 H.C.R.2012」での商談支援事業

- 1) 公益財団法人 岡山県産業振興財団が「ハートフルビジネスおかやま」として岡山県の福祉機器・用具開発を進めて来た延長線で、中国3県(岡山、広島、山口)企業が平成24年度国際福祉機器展 H.C.R.2012(東京ビッグサイト、2012年9月26日~28日)に出展する事業を実施する。
- 2) 「ちゅうごく地域福祉機器関連クラスター」として、(公)岡山県産業振興財団が3県の取りまとめ役となり、岡山県は6社、広島県は5社、山口は2社合計13社が出展することになった。
- 3) 13社の内7社(岡山:3社、広島:3社、山口:1社)が広義の販路開拓支援を求め、弊NPOが岡山財団の委託を請け、展示ブースへニーズ企業・団体を招致し、商談の支援を実施する。
- 4) 今回は医療、介護・福祉のみに特化した支援であり、これほど大きな支援は初めてのケースである。11/15~17には諏訪圏工業メッセが開催され、医療福祉関係の招致会社との間でミニ商談会も開かれることになっている。時代背景の変化につれて、この様に医療、介護・福祉に特化した支援が増加傾向にある。

**四国：四国4県の有力な中小企業を横断的にカバーした「戦略的販路開拓ネットワークの構築支援事業における都市圏連携ビジネスマッチング」を初めて受託**

「一般財団法人 四国産業・技術振興センター」殿より、平成24年度JKA補助事業「戦略的販路開拓ネットワークの構築支援事業における都市圏連携ビジネスマッチング」支援

を受託した。(H24年8月)

本事業の目的は、四国地域の中小企業が自身で開発し保有する技術シーズを、首都圏を中心とする大手企業等のニーズとのマッチングの機会を得ることであり、それによって「四国内中小企業と大手企業の出会いの場」が出来て四国地域の中小企業が大手企業との事業展開や開発の方向性を知るチャンスを提供することにある。更には、新たな商品の事業化や販路開拓に繋げる支援を目的としている。「技術シーズ」の中には、これから応用分野の検討をはかるもの、応用製品の試作開発途上のもの、既に試作品は作り挙げこれから事業化の販路開拓をはかるもの、と進捗ステージは様々である。支援の推進にはNPO組織の複眼力(メンバーの出身企業や事業分野の違い、また、開発・生産・営業・購買等々経験担当分野が異なること)とチームワークの発揮が大いに期待される。同時に掛る支援内容は短期での即効を求めるのではなく、数年単位の継続支援としての取り組みが望ましい。

註記) 財団法人 JKA (ジェイケーエー) とは、公営競技の競輪とオートレースを統括する、経済産業省管轄の財団法人 )

## 大学への講師派遣

### 【高崎経済大学】

#### 1. 「リレー講座」を受託 (2年連続)

- ・統一テーマ: 「明日の日本を考えるーグローバル化への挑戦」
- ・期間: 平成24年4月~7月、講師14人

#### 2. 同大学・付属高校のゼミ「企業訪問」プロジェクトを支援(6社の企業紹介と企業研修に助言、報告会での講評)

“ゼミ形式で早くも企業研究をしている高校がある”

- ・背景: 高校生の企業訪問による企業研究は、全国的に見ても極めてユニークな企画。リレー講座との関係で、今回、当クラブが支援することになった。
- ・実施内容: 高校生7名、大学生2~3名、教官1~2名の計10~12名で構成する6チームがそれぞれ個別に6社を訪問する。
- ・事前準備: 4月中に訪問企業を決定して貰い、5月からゼミで当該企業の研究を行い、企業に対する質問等を作成して事前に送付し、インタビュー当日に回答を頂く。当クラブは、6社を紹介。(三井物産、コマツ、三菱食品、日立化成工業、三井住友建設、三井造船) 訪問実施日: 8月24日
- ・報告会: 9月15日、出席者が約400名(高校生、大学生、高校生の母親、ゼミのOB、一般人)とは驚きであった。高校生の発表態度は自信にあふれ、立派。当クラブは、当日、会員1人が出席、報告会を聞いた後、講

評を行った。

### 【多摩大学】

- ・同大学のグローバルスタディーズ学部の講座「これからの海外進出の課題」に7名の講師を派遣。(3年目)
- ・実施期間：平成24年4月～7月まで計30コマを担当。

### 会員向けNPOサロンについて

回数名	実施日	演題	講師
第35回	5/18	「高齢化社会における(株)メッセージのビジネスモデルと事業戦略」	(株)メッセージ 代表取締役 古江博氏
第36回	6/26	「東日本大震災を振り返って ～一日でも早い東北の再生・復興 を目指して～」	(株)東芝 東北復興推進 室 営業統括責任者 庄司徹様
第37回	7/24	「ソーシャルメディアの光と影」	デジタルハリウッド大 学大学院専任教授 & N VD(株)代表取締役 松本英博氏
第38回	8/28	「北方領土問題を中心とした我が 国の領土問題について」	間瀬雅晴氏 元独立行 政法人北方領土問題対 策協会理事長、現在当ク ラブ会員
第39回	9/21	「ロボット開発の最前線」	千葉工業大学・未来ロボ ット技術研究センター 所長 古田貴之氏

### 事務局

NPO法改正に伴う東京都庁への仮認定申請：

NPO法が改正され、認定NPO取得に向けて、7月5日東京都庁生活文化局都民生活部管理法人課NPO法人係へ仮認定を受けるための申請書を提出した。

その後9月6日には、仮認定の申請審査に係る現地確認の為、同NPO法人係担当者3名が当事務所を訪問した。仮認定の資格取得後は、当NPOへの寄付金について寄付者の税制メリットが得られる事となる。来年度以降認定NPO取得に向けて、パブリックサポートテスト基準である。「寄付金3,000円以上が100人以上/年」という基準を達成すべく会費等の規程を定める事を検討する。更に、当NPOの事業の種類を見直すべく、定款の見直しも検討していく。

#### 日経ビジネス（9月10日号）に当クラブ紹介記事の掲載：

日経ビジネス編集部へアプローチせるところ、偶々同誌でも「定年後の人生選択」というテーマで企画を考えているとのことであった。

タイミング的に商談会での当クラブ活動は取材できなかったが、8月7日の業務推進委員会を取材し、9月10日号に写真付きで紹介された。一部当方発信が簡略化されすぎ誤解を招きやすい表現もあったが、概ね当クラブの活発な活動が紹介されている。

#### 24年4月以降の理事会での主な討議事項（対外事項のみ）

4月	中小企業海外展開支援チームの設立について（関口理事）
5月	定時総会后、副理事長の4名を選任
6月	仮認定NPO申請手続きについて（萩原理事）
7月	10周年記念事業（10月10日）について（世良理事） 四国産業・技術振興センターよりの支援申込みについて（永井理事） 大阪市との取組みについて（富田理事）
7月 臨時	中部経済産業局からの入札案件対応策について（富田理事） 日経ビジネスよりの取材について（萩原理事）
8月	休会
9月	四国産業・技術振興センターとの「戦略的販路開拓ネットワークの構築支援事業における都市圏連携ビジネスマッチング事業」について（山口監事） 全国イノベーション推進機構ネットワークへの訪問について（永井理事）

#### 会員の現況

（2012年8月末現在）

正会員 170名

賛助会員 17社

特定支援会員 40社

\* 4月以降入会された特定支援会員リスト：

：大和合金(株)

西光エンジニアリング(株)

(株)ウエザーコック

(有)栄和自動車

(株)ニシキ金属

以上